

審判員への指導体制の確立へ向けて

(公財) 日本ハンドボール協会
競技・審判本部

日本国内における審判員への指導及び助言について、その体制を確立したい。
指導・助言体制に関し、(公財) 日本ハンドボール協会競技・審判本部では、その担当を担う者について下記の役割を位置づけている。

- ◆インストラクター (主に 研修会での講師にあたる)
- ◆アセッサー (主に 大会における審判員への指導・助言及び評価にあたる)

1. 審判員への指導を行う者

- 審判本部合同委員会メンバー及びサポートスタッフ (審判本部組織図参照)
- 都道府県 (支部) 審判長
- 各カテゴリーの審判長 (ブロック、都道府県) ※ 4/17 修正
- 各大会審判長・副審判長
- 各大会マッチオフィシャル (MO)

2. 指導の実際

- 「競技・審判ハンドブック 2019-2020」P100～121【付録】 1 審判指導に関する資料
「レフェリーハンドブック 2021-2022」P162～169
- 審判員の実技指導の手順

上記資料に基づき指導及び評価にあたる。

3. 指導のための教材及び資料

- 「レフェリーハンドブック 2021-2022 (P1～108)」 「競技ハンドブック 2021-2022 (P1～65)」
- 競技規則及び通達
- 年度目標
- 各級公認審判員の目標
- チェックリスト
- 全日本大会担当審判員候補者研修会資料
- 競技規則問題集

上記資料を使用し指導及び講習会にあたる。

4. 指導場面

1) 各都道府県・連盟における研修会

○インストラクター

- ・プレゼンテーション指導（審判員の目標、各級公認審判員の目標 など）

2) 各大会における審判会議・ミーティング

○インストラクター

- ・プレゼンテーション指導（大会中や各日の目標、目標に対しての評価 など）

3) 各大会における試合の後

○アセッサー

- ・ゲーム観察、分析、評価、指導（各級公認審判員の目標とチェックシートを活用）

参考：

審判員の条件

- ・人間性
- ・競技規則の理解と運用
- ・技術（判定の能力、ポジショニング）
- ・アスリートとしての体力（フィジカル）

これらの観点から指導を行うことが大切である。

目標

「学ぶことを**止め**たなら、

教えることを**辞め**なければならない」